

山鹿市下水道事業経営戦略【概要版】

1. 経営戦略改定の趣旨

下水道を取り巻く環境は、年々経営状況が厳しさを増している中、本市においては、経営基盤強化と財政マネジメント向上を図るため、平成30年度と令和3年度に経営戦略を策定しました。

今回、社会情勢、経営状況の変化や会計方式の変更を踏まえ、更なる経営基盤の強化を図るべく改定するものです。なお、計画期間は令和15年度までの10年間としております。

2. 事業の概要

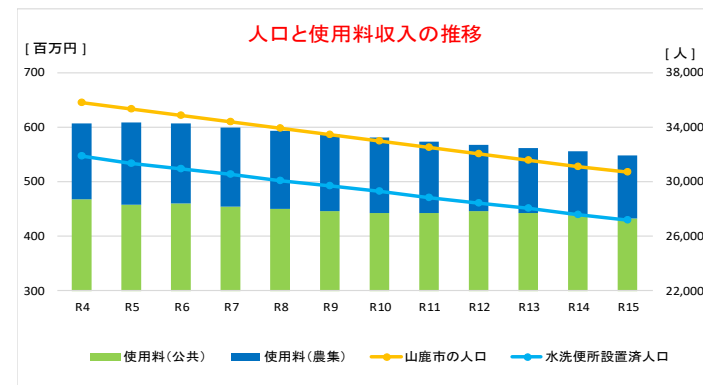
本市の下水道は、下記5事業を2会計で運営しております。

下水道事業会計（公共）	農業集落排水事業会計（農集）
公共下水道事業（S50）	農業集落排水事業（H6）
特定環境保全公共下水道事業（H9）	小規模集合排水事業（H18）
	個別排水処理事業（H10）

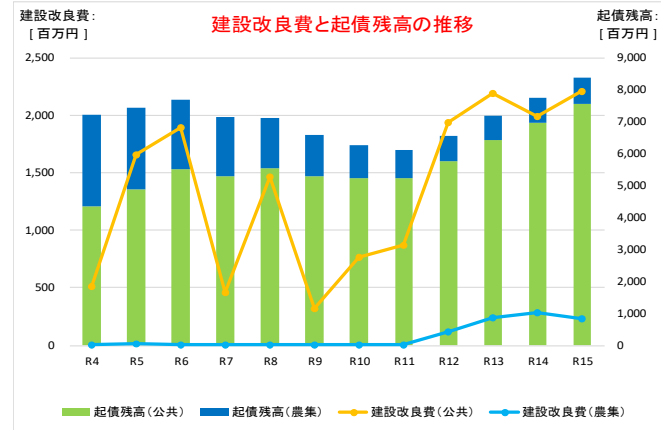
※（ ）は供用開始年

3. 現状（将来予測）と課題

○現状（将来予測）



人口減少に比例して水洗化人口・使用料収入も減少していく予測です。使用料収入は10年後には約10%減少する見込みです。



公共：令和12年度以降は耐用年数が超過した資産を更新する計画とし、起債残高も増加していきます。
農集：令和12年度以降は施設の統廃合を行う計画で、起債残高も下げ止まり、少しずつ増加していきます。

○山鹿市下水道の課題

- ・人口減少による使用料収入の減少
- ・施設の老朽化による維持管理費、更新費用の増加
- ・農集処理施設の過大保有
- ・不明水による有収率の低迷
- ・投資額の年度バラつき
- ・老朽管渠の増加

4. 経営の基本方針

(1) 経営の効率化

経営の合理化・効率化による経費削減と料金改定必要性についての検討

(2) 計画的な更新

管渠調査やストックマネジメント計画による計画的な更新と投資の平準化

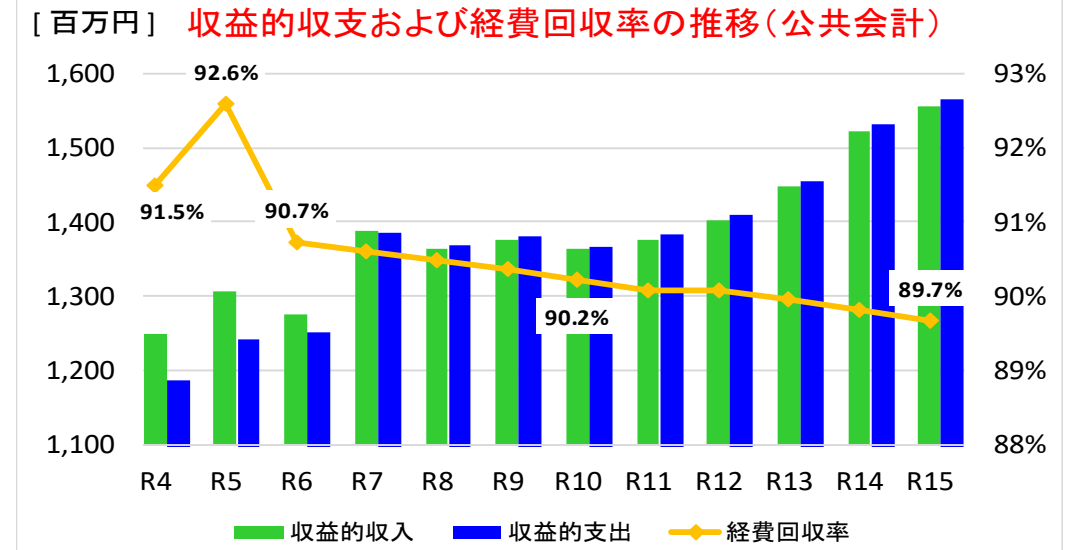
(3) 施設の最適化

施設の計画的な統廃合と人口予測等を反映した施設の最適化

5. 投資・財政計画

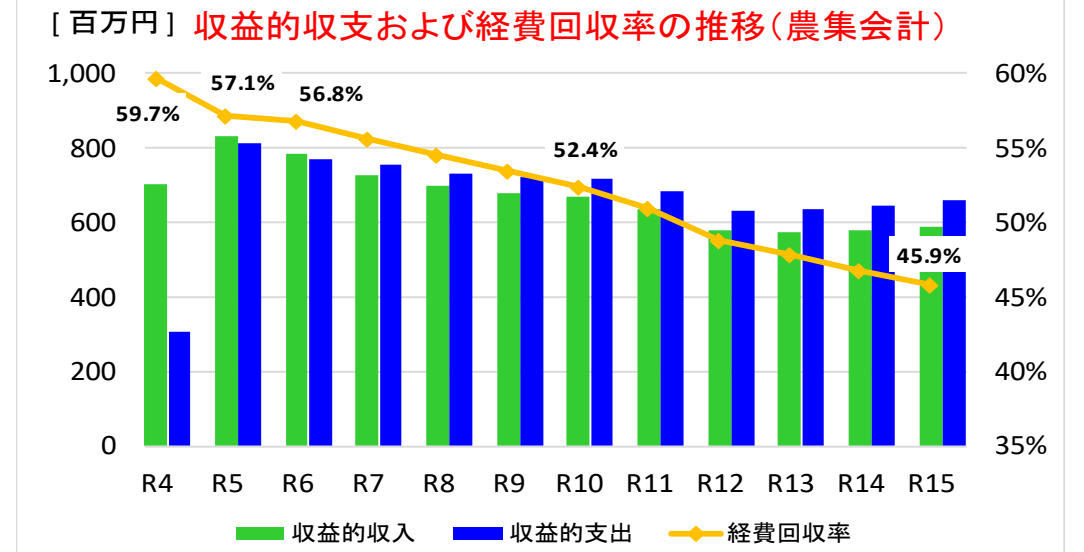
○下水道事業会計

高額投資による減価償却費の増加、及び経費の増加により令和8年度から損失が発生していく見込みです。経費の増加に伴い経費回収率も減少していくため、使用料の改定や経費の削減などの経費回収率向上に向けた取り組みが必要です。



○農業集落排水事業会計

基準内繰入金の減少と使用料の減少により令和7年度から損失が発生する見込みです。その後も損失が継続し、経費回収率も悪くなっていくことから、使用料の改定が必要となっております。なお、今回の計画では、一般会計からの借り入れにより資金不足を補っております。



6. 今後の主な取り組み

- ・令和8年度までに適正な使用料となるよう見直し、経費回収率の改善を図ります。
- ・下水道広域化推進総合事業によりし尿等汚泥と下水汚泥の集約処理を行います。
- ・農集施設の最適化（特環下水道への接続・施設の統廃合）を行います。
- ・汚泥の肥料化を行い、処分費用を削減します。

7. 事後検証

毎年度、決算により進捗管理（モニタリング）を行い、実施状況の事後検証を行います。見直しにあたっては、実績との乖離要因を分析し、改善を図ったうえで、少なくとも5年に1度の頻度で見直しを行います。今後はP D C Aサイクルを効果的に回すことにより、事後検証・計画の更新に努め、事業の経営改善を目指します。